

杉製材品が川崎港に入荷

梱包用・建築用で約1600m³

瀬崎林業

瀬崎林業（大阪市、遠野嘉之社長）と九州大手製材業者が連携して供給する杉・松製材品が7月21日、川崎港に入荷した。

今回入荷したのは、杉梱包材約1200立方方呎と、杉間柱や松土台など建築用KD材約400立方方呎の計16



快晴の下、朝から荷降ろし作業が行われた

00立方方呎。手り産材を中心とした梱包材の在庫量は、関東をはじめ全国的に品薄が続いている。手り産材の3番船は7月下旬以降、2船に分かれて川崎港に入港する予定だが、タイトな在庫状況は続く予想される。入荷した杉梱包材は、資材不足の梱包材市場における選択肢の一つとなり得る。

今回は建築材も入荷

した。建築材は、杉・松の樹種問わず引き合っている。瀬崎林業は顧客ニーズに合わせて羽柄材等を入荷し、顧客に販売している。

同内航船は7月17日に福岡県の三池港で船積みした後、20日に川崎港へ入港、21日に荷降ろしを行った。積載しているKD材の品質保護などのため、天候

不良を考慮し、当初の予定から1週間程度遅れての入荷となった。

同社による内航船を用いた杉梱包材等の入荷は2019年に開始し、今年は4月に続き2回目。次回は秋の入荷を予定している。